



『小学生 SDGs キャンプ in 江田島！』



実施報告書

1、概要

近隣の海の様子や生き物の観察・調査から、しだいに瀬戸内海全体へとフィールドを広げ、様々な海の体験活動を通して、海の環境や気候問題、ごみ問題等といった「SDGs」について考える体験活動を行う。また、リープノートレイスの考え方を用いて、環境保全・保護にむけて積極的・主体的に行動しようとする意欲や態度を養う。

- 協力 広島大学大学院統合生命科学研究科
広島大学生物生産学部（附属練習船「豊潮丸」）
江田島市大柿自然環境体験学習交流館「さとうみ科学館」
- 期 日 第1回：令和7年 8 月 7 日（木）～ 8 月 9 日（土） 2泊3日
第2回：令和7年 9 月 6 日（土）～ 9 月 7 日（日） 1泊2日
- 参加者 小学5・6年生 30名

2、活動内容

●第1回

- 1日目 開講式・オリエンテーション、ビーチコーミング、マリンウォッチング in 荒代海岸、さとうみ科学館出前授業、グループワーク
- 2日目 「豊潮丸」体験乗船、ウミホタルの採集、グループワーク
- 3日目 ビーチクラフト、グループワーク

●第2回（テント泊）

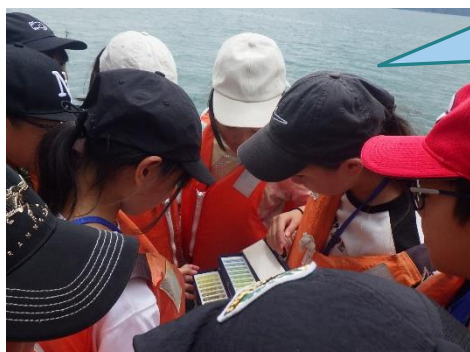
- 1日目 マリンウォッチング（食料調達）、夕食づくり、グループワーク
- 2日目 自主活動（海辺の散策）、グループワーク

3、参加者の声



ビーチコーミングで拾った漂着物を使ってクラフトをすることで、ごみを再利用することができるということが分かった。コースターやキーホルダー以外にも漂着物で拾ったものを活用してお家でもクラフトをしたい。

リープノートレイスの「他のビジターへの配慮」について考えながら食料調達をした。採れるだけ採るのではなく、食べられる量だけ採集することを心がけた。



瀬戸内海の水は濁っていて、汚いという印象があったが、CODを測ってみると、瀬戸内海の水質は思っていたよりきれいだった。

リープノートレイスの「ゴミの適切な処理」について考えながら夕食づくりをした。ゴミを少なくしたり小さくしたりして捨てることで環境にやさしいキャンプをすることができた。

